

地 域 再 生 計 画

1 地域再生計画の申請主体の名称

福井県および福井市

2 地域再生計画の名称

えちぜんいちじょうだに
越前一 乗谷戦国ロマン再生計画

3 地域再生の取組を進めようとする期間

平成16年度から5年間

4 地域再生計画の意義及び目標

福井市一乗地区を中心とする計画地域は、福井市南東部に位置し、「特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡」「一乗滝」などの歴史的・地域資源を有し、年間40万人を越える観光客が訪れる風光明媚な中山間地域である。

「一乗谷」は、中世、越前一国を支配し、姉川の合戦で浅井長政とともに織田・徳川連合軍と戦ったことでも有名な戦国大名朝倉氏（朝倉孝景〔初代〕、氏景、貞景、孝景〔2代〕、義景の五代）の城下町として100余年に渡って栄華を誇った地であり、往時は1万人以上の人口が集積した戦国時代における最大級の政治・文化都市である。

しかし、室町幕府の将軍足利義昭が京都での戦火を逃れて逗留したことでも知られる戦国城下町も、天正元年（1573年）に織田信長勢の焼き討ちにあって瞬く間に消滅し、その後、谷あいを流れる一乗谷川に沿って約400年もの間、廃墟としてその遺構が地中深くにそのままの姿で残されてきたことから、今日では「日本のポンペイ」とも「幻の都」とも称されている。

ここは、後世になっても町がつくられることなく、山間に広がる田園地帯を形成してきたが、朝倉氏の館を中心に、一族や有力家臣の屋敷跡や寺院跡、町の生活を支えた商人や職人の町屋跡、町の入り口を防御した城戸など、当時の城下町の街並みを知る上で貴重な遺構や当時の人々の生活・文化を彷彿させる貴重な史料の多くが、今なおその眠りについたまま存在する。

福井県では、福井市と協力・連携して昭和42年度から、戦国時代の城下町として、また当時の生活・文化を知る上で貴重な歴史資源である一乗谷の発掘調査を順次進め、遺跡の平面復原だけでなく往時の町並の立体復原を行うなど、地域固有の貴重な歴史的資産の保存・活用に努めてきた。

この間、昭和46年7月には、一乗地区の山あいの谷全体（278ha）が国の「特別史跡」に指定された。また、平成3年5月には、後世の手が入れられておらず、中世日本庭園の実像を知る上で庭園史に占める位置も大きい「湯殿跡」「諏訪館跡」「南陽寺跡」「義景館跡」の4庭園が国の「特別名勝」に指定されている。中でも、諏訪館跡庭園は、朝倉五代当主義景が4人目の側室「少将」のために造ったと伝えられ、特別名勝に指定されている4つある庭園の中でも最も規模の大きな庭園である。

しかし、当該遺跡の発掘整備については、発掘開始から35年以上たった今日でも未着手のエリアを相当残していることから、今後も引き続き年次計画に基づく発掘調査を進め、国民・県民・市民共有の財産として人々の歴史へのロマンを喚起し、愛着を持って受け入れられるよう史跡としての価値や魅力を高め、後世に伝えていく必要がある。

一方、特別史跡の周辺エリアには、剣豪・佐々木小次郎が秘剣「つばめ返し」を編み出した場所と伝えられる「一乗滝」や源氏ホタルが生息する「ホタルの里」などの自然資源を始め、朝倉氏遺跡の遺構・遺物等の学術成果と歴史資料を公開展示する「県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館」、一乗谷川の上流域に立地し手軽にアウトドアを楽しめる「小次郎の里ファミリーパーク」等の施設が、数多く点在している。

また、この地域は、地元の山や里で採取される山菜や野菜を使った郷土料理や清らかな地下水を利用した越前おろしそばなど、男女とも平均寿命が全国第2位という長寿県を支える豊かな食文化にも恵まれている。

しかし、一乗谷は、全国的に見ても有数の歴史資源、自然資源、食文化がありながら、依然として全国における認知度は低く、当地を訪れる観光客もここ数年、横ばいか微増で推移しているが、今後、「歴史へのロマン」や「癒し」、「やすらぎ」を求める都会の人々にとって魅力ある史跡公園、観光地として一層の飛躍が期待されている。

そこで、平成16年3月には、地元の保存協会や住民団体、観光連盟や商工会議所等の民間団体、福井県および福井市の行政機関等で構成される「一乗谷朝倉氏遺跡活用推進協議会」を設立し、遺跡の保存ならびに来訪者の利便性向上のための各種事業等を通じて、遺跡を核とした観光振興策を具現化し、民間と行政の協働による都市間交流の一層の促進を図ることとしている。

当計画は、本県の貴重な歴史資源である一乗谷朝倉氏遺跡の保存・活用を進め、遺跡と周辺の自然環境、施設等とを結びつけながら、地域的広がりを持った「戦国時代の歴史ロマンの象徴でもある一乗谷朝倉氏遺跡を巡り、散策を楽しめる学習・体験・体感の場」として再生することにより、全国に向けた情報発信力を有する本県の観光ブランドにまで価値を高め、県内外からの観光客の誘致拡大による地域経済の活性化を目指すものである。

当計画の目標を達成するためには、遺跡や自然環境を活かした観光振興策などソフト面での取組みを強化してだけでなく、周辺の道路や河川の整備、中山間地域としての整備など関連するハード事業との整合性も図りながら、地域全体として一体的に取り組むことが重要である。

このため、これらの事業に係る国の地方支分部局が、国土交通省近畿整備局、同省中部運輸局、農林水産省北陸農政局などそれぞれの管轄が異なるだけでなく、本県の地理的特性から担当支分部局のブロック（圏域）も異なっていることから、圏域を越えた国の地方支分部局の担当課長からなる「特定地域プロジェクトチーム」の編成は、当計画の強力な推進をもたらすことになり、この支援措置を受けることにより、当該地域を歴史的資源と自然環境を融合させた全国的な観光地として一体的かつ総合的に整備し、全国に誇れる魅力ある観光地として情報発信を行っていきたい。

5 地域再生計画の実施が地域に及ぼす経済的社会的効果

(1) 一乗谷朝倉氏遺跡を核とした交流人口の拡大

一乗谷朝倉氏遺跡を核とした計画地域の交流人口の拡大を図るため、特別史跡エリア内では、計画的に発掘整備を行い、歴史的資産である史跡の付加価値を高めていく。また、遺跡周辺の自然を満喫できる環境を創出するなど、ソフト、ハード両面に渡った関連事業を実施することにより、県内外の人々へのアピール力を高め、交流人口の拡大を実現する。

また、特別史跡の周辺エリアでは、自然や農林業、伝統料理、地域固有の文化など様々な地域の資源を再発見し、また一乗谷朝倉氏遺跡と連携した観光誘客への取組みを実施することにより、地域全体の魅力を最大限に高め、交流人口の一層の拡大を図っていく。

県全体では、計画の実現目標に設定した5年間後(平成20年)に、年間交流人口を10%伸ばすとともに、スローライフを体感する旅行へのニーズの高まりを背景に、滞在型の体験プログラムを研究・開発することで、交流人口に占める宿泊客の割合を、現行の23%から

26%にまで高めることとする。

また、計画区域である福井市一乗谷エリアでは、5年間後の年間交流人口を、現行の10%増(47万3千人)を目標に設定する。

しかし、この地域は、民宿・旅館が数件立地しているだけで、宿泊客の割合が県内の他の地域に比べて極端に低く、今後もこの地における宿泊客の増はそれほど期待できない。そのため、地域製品の販売や移動式茶店の運営など、日帰り客を惹きつける魅力ある観光客の誘致拡大のための地域の取組みを強化し、目標の実現を目指す。

県全体(中山間地域)

(千人)

| | H14(H15) | H20 | 計画最終年度と現在との比較 | |
|------|-------------------|-------------------|---------------|------|
| 日帰り客 | 2,719 (76.9%) | 2,879 (74.0%) | 160 | 106% |
| 宿泊客 | 817 (23.1%) | 1,011 (26.0%) | 194 | 123% |
| 計 | 3,536 (100.0%) | 3,890 (100.0%) | 354 | 110% |

福井市

(千人)

| | | H14(H15) | H20 | 計画最終年度と現在との比較 | |
|------|------|-----------------|-----------------|---------------|------|
| 全体 | 日帰り客 | 2,033 | 2,155 | 122 | 106% |
| | 宿泊客 | 449 | 552 | 103 | 123% |
| | 計 | 2,482 | 2,707 | 225 | 109% |
| 計画区域 | 日帰り客 | 428 (99.5%) | 470 (99.4%) | 42 | 110% |
| | 宿泊客 | 2 (0.5%) | 3 (0.6%) | 1 | 123% |
| | 計 | 430 (100.0%) | 473 (100.0%) | 43 | 110% |

(計画区域は、福井市一乗谷エリア)

[積算根拠]

- H14の観光客数：福井県観光客数動態調査に基づく実績値。当計画の基準年となる平成15年の観光客数は現在調査中であるため、平成14年実績と同数を見込む。
- H20の観光客数：平成16年3月に第4次構造改革特区認定を受けた「福井型エコ・グリーンツーリズム推進特区」申請の際に設定した、本県の中山間地域における観光客の目標値。近隣他府県が設定した目標値を参考に、全体で現行の10%増を見込む。

(2) 観光消費額の増加

日帰り客にとっての魅力を生み出し、都市との交流人口を増やすことにより、計画区域における観光消費額の増加を実現し、地域経済の活性化を図る。

県の中山間地域全体では、前項で説明した交流人口の増加に伴い、計画目標年である5年後に、現在の観光消費額と比較して、年間18%増の約18億6,200万円の経済効果を見込む。

また、計画区域における観光消費額は、地域製品の販売や移動式茶店の運営など日帰り客

を惹きつける魅力ある観光客の誘致拡大のための地域の取組みを強化することで、観光客1人当たりの観光消費額を現在の300円から500円に引き上げるなど、5年後には現在の観光消費額より約1億700万円多い年間約2億3,700万円の消費額を見込む。

県全体（中山間地域）

（千円）

| | H14（H15） | H20 | 計画最終年度と現在との比較 | |
|-----|------------------------|------------------------|---------------|------|
| 日帰り | 2,779,794 （27.4%） | 2,946,581 （24.5%） | 166,787 | 106% |
| 宿泊 | 7,371,794 （72.6%） | 9,067,306 （75.5%） | 1,695,512 | 123% |
| 計 | 10,151,588 （100.0%） | 12,013,887 （100.0%） | 1,862,299 | 118% |

福井市

（千円）

| | | H14（H15） | H20 | 計画最終年度と現在との比較 | |
|------|-----|------------------------------------|-------------------------------|---------------|------|
| 全体 | 日帰り | 2,220,599 | 2,353,835 | 133,236 | 106% |
| | 宿泊 | 5,673,252 | 6,978,100 | 1,304,848 | 123% |
| | 計 | 7,893,851 | 9,331,935 | 1,438,084 | 118% |
| 計画区域 | 日帰り | 128,370 （1人あたり@300円） （99.0%） | 235,000 （@500円） （99.3%） | 106,630 | 183% |
| | 宿泊 | 1,320 （@600円） （1.0%） | 1,624 （@600円） （0.7%） | 304 | 123% |
| 計 | | 129,690 （-） （100.0%） | 236,624 （-） （100.0%） | 106,934 | 183% |

（計画区域は、福井市一乗谷エリア）

〔積算根拠〕

- H14の観光消費額：福井県観光客数動態調査に基づく実績値。当計画の基準年となる平成15年の観光消費額は現在調査中であるため、平成14年実績と同額を見込む。
- H20の観光消費額：前項の観光客数の増に観光客1人当たりの消費額単価を乗じて得た額。日帰り客の観光消費額は、現行の単価300円から大幅アップの500円を見込む。

6 講じようとする支援措置の番号及び名称

- 11203 地域再生支援のための「特定地域プロジェクトチーム」の設置
212016 「一地域一観光」を推進する「ひと」「情報」の充実

7 構造改革特区の規制の特例措置により実施する取組その他の関連する事業

(1) 構造改革特区の規制の特例措置により実施する取組

なし

(2) その他関連する事業

一乗谷朝倉氏遺跡の発掘整備および管理（福井県、福井市）

一乗谷朝倉氏遺跡は、昭和42年に発掘調査を開始し、翌43年には朝倉館跡の発掘に着手し、日本で初めての戦国時代の城主の居館跡の発掘に成功した。昭和47年には、山城や城下町を含む278haが国の「特別史跡」に指定され、年次計画に基づき発掘を進め、平成7年には復原町並が完成した。その間、平成3年には朝倉館跡、湯殿跡等の4園が国の「特別名勝」の指定を受ける。

当遺跡の発掘整備、管理等については、福井市が用地買収ならびに史跡管理、県が発掘・環境整備を行うことで役割分担しながら、今日まで、相互の連携と協力もとで実施しているところである。

現在の発掘整備の状況は、以下のとおりである。また、今後の発掘整備については、現在の第2次中期計画10か年計画を16年度で打ち切り、平成17年度から新たな10か年計画をスタートさせ、発掘整備の早期促進を図ることとしており、平成16年度中に取組みの内容を検討することとしている。

(発掘整備の状況)

| | |
|----------|----------------------------------|
| 全体面積 | 約 278ha |
| 発掘整備必要面積 | 約 36ha (公有化済面積約22ha、未公有化面積約14ha) |
| 公有化済面積 | 約 28ha (事業費 902百万円) |
| 発掘調査済面積 | 約 13ha (事業費 999百万円) |
| 復原整備済面積 | 約 8ha (事業費 1145百万円) |

(公有化済面積の発掘整備状況)

(単位：m²、千円)

| | 年度 | 発掘調査 | | 環境整備 | | |
|-----------|---------|--------|---------|--------|---------|---------|
| | | 面積 | 金額 | 平面復原 | | 立体復原 |
| | | | | 面積 | 金額 | 金額 |
| 第1次5か年計画 | S42-S46 | 7,550 | 11,325 | 5,822 | 31,211 | - |
| 第2次5か年計画 | S47-S51 | 19,339 | 84,000 | 15,330 | 85,000 | - |
| 第3次5か年計画 | S52-S56 | 27,418 | 145,100 | 18,055 | 73,000 | - |
| 第4次5か年計画 | S57-S61 | 21,338 | 144,097 | 8,630 | 45,000 | 113,800 |
| 第1次10か年計画 | S62-H08 | 40,285 | 386,489 | 21,230 | 136,002 | 551,961 |
| 第2次10か年計画 | H09-H18 | 21,000 | 279,261 | 25,900 | 151,230 | - |

ソフト事業の実施

移動式茶店()の開設（一乗谷朝倉氏遺跡活用推進協議会）

来訪者に対して遺跡内で可能なサービスを提供し、遺跡の魅力を高めるため、戦国時代の風俗を再現した移動式茶店を運営する。(16年度～)

室町時代の庶民への飲茶の風俗の普及に伴い、寺社の門前等に「一服一銭」という安価な茶売りが登場。風炉、釜、茶道具を天秤棒で担ぎ（担い茶屋）、人が多く集まるところに出向き、その場で抹茶を点てて売ったもの

有料施設共通観覧券の発行（福井県、福井市、一乗谷朝倉氏遺跡活用推進協議会）

来訪者の利便性の向上を図るため、福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館と福井市一乗谷朝倉氏遺跡復原町並との共通観覧券を発行する。（16年度～）

直接誘客事業の実施（福井県）

・「ビジットふくい」観光客誘致拡大事業

本県の「豊かな自然」「歴史的文化財」「健康長寿を支える食」などと本県内の宿泊施設を組み合わせた滞在時間の長い観光を推進するため、新規旅行商品の造成により観光客の誘致拡大を図る。（16年度）

〔実施方法〕 優れた旅行商品を提案する旅行会社へ委託

〔商品内容〕 ・一乗谷朝倉氏遺跡などの観光資源と健康長寿をコンセプトとした食文化等を組み合わせたコース
・県内での宿泊で、県内を主としたコース
・新たな旅行商品

・JRタイアップ観光客誘致事業

西日本屈指の送客能力（輸送力）を持ち、駅・列車内の広告媒体を活用できるJR西日本とタイアップし、本県への旅行商品を造成し、観光客の誘致促進を図る。（16年度）

〔実施方法〕 JR西日本へ委託

〔商品内容〕 県内主要観光地に一乗谷朝倉氏遺跡など「歴史再発見」や「心の観光」といった新たな観光素材も盛り込んだコース

地域が主体となったまつり、講座等の開催（地域の保存会や住民団体、福井県、福井市等）
観光誘客を促進するため、年間を通じた伝統行事やまつり、イベント等の開催を検討、実施する。（16年度～）

〔実施例〕 まつり（戦国まつり、ホテルまつり、左義長、おこげまつり等）

朝市、伝統料理

見学会（遺跡、山城）

講座（春季、夏季、秋季、冬季）

発掘調査現地説明会

公開講座（文化の日、ふるさとの日）

一乗谷朝倉氏遺跡資料館企画展・同記念講演会

有料道路無料化による広域連携（福井県、福井市）

福井市東部地区から曹洞宗大本山永平寺（永平寺町）に通じる「永平寺有料道路」が平成16年10月1日から無料化されることにより、一乗谷朝倉氏遺跡と永平寺を結びつけた広域的な観光誘客方策等を検討、実施する。

公共交通機関等の充実（福井県、福井市）

鉄道や路線バスを利用した観光客の利便性を向上させるため、JR越美北線一乗谷駅への無料レンタルサイクルの充実、路線バスのバリアフリー化などを促進する。

一乗谷朝倉氏遺跡を活用したソフト事業等の展開（福井市）

福井県内34市町村を会場として平成17年度に開催される「国民文化祭」において、福井市は、一乗谷朝倉氏遺跡を主会場とした「朝倉文化フェスティバル」事業を市主催事業の一つとして実施する計画で、平成16年秋からプレ事業を逐次実施していくこととしている。

主たる内容は、史跡ウォーク等の史跡を理解することを目的とした事業のほか、新能、

茶会、朝倉将棋大会等を企画しており、従来から地区住民が開催している「朝倉戦国まつり」とリンクした内容で実施される。平成18年度以降は、このフェスティバルで実施される薪能、朝倉将棋大会等を一乗谷朝倉氏遺跡の恒例事業として位置付ける。

また、一乗谷を訪れる観光客は小中学生、高齢者が中心であり、史跡内の散策など移動範囲にも限界があることから、広大な特別史跡エリア内に休憩およびイベントに活用できる広場を整備することが課題となっていることから、本県における国民文化祭の開催を契機に、見学・観光客からの要望も強い復原町並近隣にイベント開催広場等を整備することで、見学・観光客の利便性の向上および誘致拡大策につなげていく。

この場合、トイレ、看護所等の便益施設、また、相当数の見学者が見込まれることから、休憩所、朝倉氏遺跡関連グッズ、飲み物等の売店の設置も検討していきたい。

ハード事業の実施

周辺アクセス道路の調査、整備（福井県）

自家用車や大型観光バスによる観光客の誘致促進を図るため、周辺アクセス道路の調査、整備を行う。

河川、景観の整備（福井県）

一乗谷の里を水害から守り、歴史的環境と調和した河川整備を行うため、昭和63年からふるさとの川整備事業を活用し、「ホタルの里」として有名な一乗谷川流域の整備を行っている。今後、用地買収や埋蔵文化財の発掘調査の進捗にあわせて、段階的に河川・景観の整備を行う。

中山間地域総合整備（福井県、福井市）

平成10年度から平成16年度まで、「中山間地域総合整備事業（一乗地区）」を実施し、農村公園や活性化施設、市民農園、施設間の連絡道の整備など、農業生活環境基盤等の充実を図っている。

中山間地域総合整備事業の実施に併せて、農業体験、自然体験を求める都会の観光客の誘致促進を図るため、地域住民が核となって、施設等を有効活用し、一乗谷朝倉氏遺跡を核とした地域全体の魅力向上のための方策を検討、実施する。

あすわがわ足羽川頭首工公園の整備（福井市）

県施工により昭和38年に完成した足羽川頭首工は、農業用水の安定供給という農業基盤施設としての機能を果たしてきたが、老朽化が激しいため現在改修工事を行っている。この改修工事では、観光資源としても活用できるよう自然と触れ合える親水機能を併設する予定である。

この足羽川頭首工と一体となった農業用水の多面的な活用を図るとともに、一乗谷周辺の歴史、文化、自然などの地域資源の総合的な活用を図るため、一乗谷周辺観光の玄関口として頭首工公園並びに交流施設の整備を行う。

地域と行政が一体となった推進体制の強化

一乗谷朝倉氏遺跡を活用し、周辺地域の地域資源と結びつけながら付加価値を高め、全国に向けて情報発信していくためには、地域と民間団体、行政が一体となった推進体制を整備・強化していく必要がある。

(想定される推進母体)

| | | |
|--------|--|---|
| 名 称 | 一乗谷朝倉氏遺跡活用推進協議会 | |
| 設立年月日 | 平成16年3月30日 | |
| 設立目的 | 貴重な歴史的遺産である特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡の保存を図るとともに、地域住民、関係団体および行政機関の連携により、遺跡とその周辺地域について観光振興およびイメージアップへの活用を推進することを目的とする。 | |
| 協議会の事業 | 一乗谷朝倉氏遺跡への来訪者の利便性向上のための事業 一乗谷朝倉氏遺跡への来訪者の満足度向上のための事業 一乗谷朝倉氏遺跡への来訪者の増加のための事業 | |
| 協議会の構成 | 地域 | 社団法人朝倉氏遺跡保存協会 朝倉氏遺跡を愛する友の会 一乗ふるさと交流館振興会 |
| | 民間団体 | 社団法人福井県観光連盟 財団法人福井コンベンションビューロー 社団法人福井市観光協会 福井商工会議所 日本旅行業協会中部支部福井地区会 |
| | 行政 | 福井県 福井市 |

- 8 その他の地域再生計画の実施に関し地方公共団体が必要と認める事項
なし

別紙

1 支援措置の番号および名称

1 1 2 0 3 地域再生支援のための「特定地域プロジェクトチーム」の設置

2 当該支援措置を受けようとする者

福井県および福井市

3 当該支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

プロジェクトチームを設置して取組むべき課題、設置の必要性

今回の地域再生計画は、本県の貴重な歴史資源である一乗谷朝倉氏遺跡の保存・活用を進め、遺跡と周辺の自然環境、施設等とを結びつけながら、地域的広がりを持った「戦国時代の歴史ロマンの象徴である一乗谷朝倉氏遺跡を巡り、散策を楽しめる学習・体験・体感の場」として再生することにより、全国に向けた情報発信力を有する本県の観光ブランドにまで価値を高め、県内外からの観光客の誘致拡大による地域経済の活性化を目指すものである。

当該計画の目標を達成するためには、遺跡や自然環境を活かした観光振興策などソフト面での取組みを強化してだけでなく、周辺の道路や河川の整備、中山間地域としての整備など関連するハード事業との整合性も図りながら、地域全体として一体的に取り組むことが重要である。

例えば、この地域においては、周辺アクセス道路の整備や河川、景観の整備、中山間地域総合整備、足羽川頭首工公園の整備等の関連事業を実施している、または今後実施していく予定であるが、これらの事業に係る国の地方支分部局は、国土交通省近畿整備局、同省中部運輸局、農林水産省北陸農政局などそれぞれの管轄が異なるだけでなく、本県の地理的特性から担当支分部局のブロック（圏域）も異なっていることから、上記の目標達成に向けて連携が図りにくいという課題に直面している。

そこで、圏域を越えた国の地方支分部局の担当課長からなる「特定地域プロジェクトチーム」を編成することにより、当該地域を歴史的資源と自然環境を融合させた全国的な観光地として一体的かつ総合的に整備し、全国に誇れる魅力ある観光地として情報発信を行っていく必要がある。

主な連携内容

各圏域にまたがる福井県所管の国の地方支分部局を構成メンバーとする「特定地域プロジェクトチーム」を編成し、下記事項を中心に連携を図り、国、県、市町村が一体となって、魅力あふれる全国規模の観光地づくりを目指す。

- ・地域の活性化、観光振興の観点から中部縦貫自動車道や国道158号など道路網の整備促進
(国土交通省：近畿地方整備局、中部地方整備局)
- ・足羽川や一乗谷川の河川環境や良好な景観形成の整備促進
(国土交通省：近畿地方整備局)
- ・観光地としての魅力発信のための各種観光施策や観光客が利用しやすい交通施策との連携
(国土交通省：中部運輸局)
- ・魅力ある地域づくりのための「中山間地域総合整備事業」や「農村振興総合整備事業」との連携・支援
(農林水産省：北陸農政局)

別紙

1 支援措置の番号及び名称

212016 「一地域一観光」を推進する「ひと」「情報」の充実

2 当該支援措置を受けようとする者

福井県および福井市

3 当該支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

取組の必要性

当該地域は、「特別史跡一乗谷朝倉遺跡」「一乗滝」などの歴史的・地域資源を有しており、国民・県民共有の財産として人々の歴史へのロマンを喚起し、愛着をもって受け入れられるよう史跡としての価値や魅力を高め、後世に伝えていくためにも、遺跡を核とした観光振興策を具現化し、観光地として一層飛躍させていく必要がある。

現在、地元の保存会や住民団体、観光連盟や商工会議所等の民間団体、福井県および福井市の行政機関等で構成される「一乗谷朝倉氏遺跡活用推進協議会」で、遺跡を核とした観光振興策を検討中である。

今後、この協議会を中心に平成16年度において、国の支援措置を積極的に活用して、「ひと」「情報」の充実を図ることで、「観光」をキーワードとした個性・魅力ある地域づくりを推進する。

主な活用事項

- ・観光カリスマ塾や外国人対応のサービスの充実等に資するための研修会等に積極的に参加し、魅力的な観光地づくりの核となる人材の育成を図る。
- ・各地のボランティアガイドのサービス内容、先進的なNPO活動等に関する情報、地域づくりに豊富なノウハウを持つ人材、地域づくりの先進事例や各種施策措置等の情報を積極的に収集し、魅力ある地域づくりを推進するとともに、観光客に地域の魅力を発信するための各種事業を展開し、本県独自に実施している「観光もてなし運動」の推進に役立てる。
- ・また、当該地域からの観光情報の提供なども積極的に行っていく。